

2014年度 学校評価報告書 所属名 ( 京都聖母学院小学校 )

学校目標	豊かな学力と創造性を持ち誰に対しても誠実で礼儀正しく奉仕の喜びを知る子どもを育てる。
------	--

校長	澤井 広子
----	-------

重点目標	2014年度の具体的目標 1、 カトリック精神に基づく心の教育 2、 基礎学力の充実とよりレベルの高い授業 3、 しつけの行き届いた子どもを育てるマナー教育 4、 有意義な研修による教員のスキルアップ
------	--

学 校 自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価	
目 標		評 価 (児童12月5日実施 保護者12月12日～19日に実施)	
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果 次年度への課題と改善
1	カトリック精神に基づく心の教育	* 宗教と並行して道徳の授業を進めカトリックの精神を学ぶとともに人間の生き方についても学んでいく。  * 誕生学で命の大切さを学んだり、ルワンダの実情を知り募金をしたり、支援の活動を展開していくことで奉仕の素晴らしさを知らせる。またお米一握り運動でお米を集めて釜が先の人々を支援する  * エコキャップやプルタブを集めることで世界の困っている子どもたちを支援する。  * 学年のミサができるようにミサにあずかる機会を増やし、例年の宗教行事も充実させる。	* 宗教担当の教員と担任が協力してつきに会の道徳授業を実施できるように努めた。道徳の公開授業も実施し、よりレベルの高い授業を目指すことができた。  * ガテラさん真美さんは来校できなかったが支援のための準備を着々と進めることができた。2年生には誕生学の出張授業を行い、命について考えさせた。  * エコキャップ運動や感謝掃除の運動が認められ、環境美化優良賞を受賞した。  * 例年行われている4～6年の学年末修養会をミサの形にした。また、各宗教行事で事前指導を行い、子どもたちが理解したうえで行事に参加できるよう、配慮した。
2	基礎学力の充実とよりレベルの高い授業	* 学年に応じた計算力をつける  * 漢字能力を伸ばし全校漢字検定合格率アップを目指す。  * 作文能力を伸ばす。  * 朝の1分間スピーチで考えをまとめて話す力をつける。  * さまざまな実験を取り入れたり、企業の出張授業を実施することで理科の興味関心を高める。  * 読書をする中で本に関心を持たせ、読書量を増やす。  * 基本的な学力を身につけるために補習を実施し理解を深める。  * 国際・総合ともに英語能力を伸ばす	* 副担任が担当して、各学年に応じた計算テストを毎日継続し事後指導も充実させてことにより計算力がアップした。  * 漢字検定の合格率が上がった。  * 日記をつけ担任に提出することによって担任とのコミュニケーションをとると共に作文能力を伸ばした。  * 各学年に応じたスピーチをすることによって自分の考えを表現する能力が伸びた。教科にも生かされ算数研究発表などに効果が現れた。  * 出張授業等を取り入れて専門家の出張授業を取り入れることで本格的な実験を体験させることができた。  * 朝読書で1日が静かに始まり授業がスムーズにスタートできた。また、読書量も増えた。読書活動優秀実践校に選ばれ、文部科学大臣表彰された。  * 全学年にわたって補習を実施することで基礎学力の定着を図った。  * 総合の英語授業を去年度引き続き、2つに分けて実施し、個別指導に力を入れた。また、イングリッシュチャットを充実させた。
3	しつけの行き届いた子どもを育てるマナー教育	* 朝礼・儀式の際により厳粛な雰囲気になるように指導する。  * 身だしなみを整え、きまりを守るよう指導する  * 登下校の際の車中のマナーなど具体的に指導する。	* 朝礼を初めとする儀式の行き届いた私語を慎むよう指導すると共に儀式中の姿勢も細かく指示することで緊張感を持って儀式にのぞめるようになった。  * 登下校時の制服の着方について教員全員で共通意識を持って指導したところ、身だしなみに気をつけるようになった。  登校班会議で指導・話し合いをすると共に必要に応じて登校班を召集して指導した結果、車中での態度を向上させようと努力するようになった。
	有意義な研修による教員のスキルアップ	* 授業力の向上  * 基礎能力の向上  * 若手教員の養成  * ネイティブ教員のスキルアップ	* 学期1回の研究授業・各公開授業・公開研究会を通して各々の授業を見直し向上するべく努力した。公開授業には多くの教員が参加し、研究会にも意見が多く出され有意義な話し合いが行われた。  * 年5回の教員研修を実施し、学外の研修に積極的に参加することによってそれぞれの基礎能力を向上させることができた。  * 学内新任研修の実施や西日本・京都の私学連合研修の参加などを進めると共に各学年においても学年主任を中心にさまざまな面で指導し、効果を上げた。  * ネイティブに年1回の公開授業を義務付け、授業の規律等についても説明する機会を設けた。すべてのネイティブが公開授業を行い、互いに見合うことができ授業方法について考える時間が持たれた。

学校関係者からの意見・要望・評価等 (3月28日実施)
以下の観点から評価を実施した。  ①今年度の学校評価の内容が適切かどうか。 ②学級・学年・学校の取り組みは保護者が満足するものであったかどうか。 ③保護者学級委員の活動について。  ①今年度の学校評価の内容が適切かどうか。 去年度と同じ質問のアンケートだったため年間の比較がしやすかった。 教員対象のアンケート結果は手紙には出さなかったがこれからの教育活動の参考になった。  ②学級・学年・学校の取り組みは保護者が満足するものであったかどうか。 おおむね満足されているのがアンケート結果からもわかった。 学校の中に入ったときの雰囲気も引き締まったように感じる。 卒業式が素晴らしかった。 すべて保護者の意見を聞くのではなく学校側に任せていただく部分があってもよい。 広報活動に力を入れているのが良くわかる。 合唱団の功績が花を添えている。  ③保護者学級委員の活動について。 働いているお母さんが増え、以前にもまして学年委員を引き受けてもらいにくくなった。 来年度はより負担を減らすために集る回数を減らし、予定もなるべく早く知らせることにしたのは良い。 去年度の学年委員で残留して引き続き学年委員を引き受けていただく方を募るなど工夫している。